

2018年9月ドミニカ共和国内政、外交、経済定期報告

2018年11月9日

在ドミニカ共和国日本大使館

1 内政

(1) 2日, メヒーア元大統領(最大野党PRM所属)がテレビ及びラジオを通じ2020年大統領選挙の各党候補者選出を行う2019年大統領予備選挙への正式立候補を行った。

(2) 7日, メディーナ大統領は911緊急システムの局長にビセンテ・メディーナ前ドミニカ(共)軍医療長を任命。

(3) 12日, 中央選挙委員会(JCE)は, 各党の2019年予備選の実施方法を11月6日までにを行うよう求めた。

(4) 27日, 国防省はハイチとの国境地域の監視を強化すべく「Cerco Fronterizo」部隊の創設を発表。

2 外交

(1) 3日, バーンスタイン米国新大使がバルガス外相に信任状写しを提出した。

(2) 6日, バーンスタイン米国大使を始めとする各国の新大使がメディーナ大統領に信任状を捧呈。

(3) 6日, Zhang Run当地中国大使が, ドミニカ送電会社(ETED社)を訪問し, 中国企業が送電システムの効率改善に寄与すべくエネルギー分野における10億ドルの投資をする準備があると発言。

(4) 7日, 米務省が駐パナマ, エルサルバドル及びドミニカ(共)の米国大使をワシントンに協議のために一時召還する旨発表。

(5) 10日, 当地中国大使館は, 今般の駐ドミニカ(共), エルサルバドル及びパナマの米国大使の本国呼び寄せに関する中国政府の批難声明をプレスリリースにて報道。

(6) 10日, ガラビート駐中国ドミニカ(共)大使は, 習近平国家主席に信任状を捧呈した。

(7) 10日, バルガス外相は当地紙によるインタビューにおいて「ドミニカ(共)はハイチ情勢改善につながるイニシアティブを支持していきたい。先般のラ米諸国によるベネズエラ移民対策のためのキット宣言において, あらゆる困難な事態において最も優先されるべきは対話であるとし, 投票を棄権した。ドミニカ(共)は, ニカラグア情勢につき, ベネズエラ情勢と同様に大いに懸念している」と述べた。

(8) 14日, 米務省により, 先般の中台承認替えの協議のために本国に呼び戻されていたバーンスタイン駐ドミニカ(共)米国大使がドミニカ(共)に帰任。

(9) 18日, バルガス外相はベネズエラに対するあらゆる軍事介入に反対すると発言。

(10) 19日, ベネズエラ軍のバエス退役将校が米国とドミニカ(共)からベネズエラ

政府に対する陰謀を企てているとのマドゥーロ・ベネズエラ大統領の発言につき、バルガス外相が当国における陰謀の存在を否定。

(11) 20日、王毅中国外交部長が当国を公式訪問、メディーナ大統領表敬及びバルガス外相と会談した他、当地中国大使館の開所式に出席した。

(12) 25日、メディーナ大統領は国連総会において演説を行った他、赤道ギニアのオビアン・ンゲマ大統領及びホンジュラスのオルランド大統領とそれぞれ会談を行った。また、メディーナ大統領に随行したバルガス外相はマース独外相と二国間会談を行った。

(13) 国連総会のマージンにおいて、バルガス外相はセネガル、サントメ・プリンシペ、ブルンジ、チュニジア及びニジェールとの国交樹立に合意した他、トランプ米大統領主催の国連安保理構成国外相会合、第15回CELAC外相会合、及びCELAC-中国・外相カルテット会合等への出席、及びラブロフ露外相ら各国要人とバイ会談を行った。

3 経済

(1) 5日、当國中銀が本年1月-7月のマクロ経済指標を発表し、対前年度比で6.7% (ラ米カリブ地域で最高値) の経済成長率を記録した他、IMFはドミニカ(共)の好調な経済成長により、本年末には一人あたりGDPが、ラ米地域で6位となる旨報じた。

(2) 17日、ドミニカ電力公社(CDEEE)が、当国政府と建設コンソーシアムの間で同発電所の建設完了を保証する3億3600万ドルの臨時基金を創設したと発表。

(3) 21日、9218億ペソに上る2019年予算案が閣議決定した。

(別添1) 経済指標

(了)